

道徳の時間で活用する ～友情、信頼～

岩国市立高森小学校 岡本 直美

1 本場面におけるポイント

- 事前に、「私たちの道徳」P. 76に各自の成功経験を記入し、道徳的価値を掘り起こしておく。
- 記入内容に対し、称賛の言葉を保護者に書いてもらうことにより家庭と連携する。
- 終末、関連ページの名言を児童と朗読し、これからの学校生活に生かせるよう意識付けを行う。

2 授業の実際

1 主題名（資料名） みんな なかよく（およげない りすさん）

2 ねらい

遊んでいても楽しくないかめ、白鳥、あひるの思いや4匹で島に向かう場面を想像することを通して、友達のことを考えたり、友達のために行動したりすることがみんなの楽しさやうれしさにつながることに気づき、友達と助け合って仲よくしようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：昨日、「私たちの道徳」の76ページに友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったことを書いてもらいました。今日は、力を合わせるとはどのようなことを勉強します。
A児：学級目標の「力を合わせてファイト1の1」と一緒だ。
教師：資料を読む。(P. 78～P. 79)

□ 指導上の留意点等

一人ひとりの問題意識を高めるために、事前に、1・2年「私たちの道徳」P. 76を記入する時間を取り、導入を短くし、すぐに教師が資料を読み、話合いに入った。学級目標が「力を合わせてファイト1の1」なので、「ともだちとなかよく」を、より具体的に「力を合わせるとはどのようなことなのか。」という表現を使い、導入とした。



(2) 展開

教師：遊んでいても楽しくない3匹は、どんなことを考えているだろう。
A児：やっぱりりすさんがいないと楽しくないよ。
B児：りすさん、ごめんね。りすさん連れて行ってあげる。
教師：連れて行ってあげたいけど、りすさんは泳げないんだよね。
C児：りすさんがいたほうがいいなあ。でも泳げない。どうしよう。なやむなあ。りすさんがいないと楽しくない。
D児：りすさんにあんなひどいことをしてしまったなあ(後悔)。
E児：りすさんのこと心配。りすさん今頃どうしているかな？いじわるしたなあ。
F児：かわいそうだったなあ。
G児：りすさん連れて行ってあげよう。
H児：りすさんも行きたいと思ったよ。
教師：みんなだったら、どうやって連れて行ってあげたい？
I児：船で連れて行ってあげたい。
J児：白鳥さんの背中に乗せて行きたい。
K児：浮き輪をつけて、ロープで引っ張ってあげたい。
L児：泳ぐのを教えてあげたい。
教師：資料を読む(P. 80～P. 81)。
教師：島に行きながら、白鳥さん、かめさん、あひるさんは何と言っているだろう。(ペープサート提示) みんなは白鳥さんになって言おう。
全員：りすさん、きのうはごめんね。
M児：一緒に遊ぼうよ(ペープサートを動かしながら)。
N児：ぼくの背中に乗って行こうよ(ペープサートを動かしながら)。
O児：何して遊ぶ(ペープサートを動かしながら)。
P児：この間はごめんね(ペープサートを動かしながら)。

Q児：楽しいね（ペープサートを動かしながら）。
 教師：悲しい顔をしていたりりすさんの顔はどうして笑顔に変わったんでしょう（ペープサートを動かしながら、板書を振り返りながら）。

R児：みんなと一緒に遊ぼうって言ってくれたから。
 S児：みんなと遊べてうれしかったから。
 T児：みんなに島に連れて行ってもらったから。
 U児：白鳥さんがふわふわ言葉を使ったから、りすさんの気持ちが変わったと思う。
 V児：ふわふわ言葉を使って3人じゃなくて、4人で遊んだから。



□ 指導上の留意点等

3匹で遊んでいても楽しくないかめ、白鳥、あひるの気持ちを想像することを通して、いじわるをした後悔の気持ちや泳げないから連れて来なかったジレンマを丁寧に扱うようにした。3匹の思いに寄り添うことが、後半のペープサートでの表現活動に生き、アドリブで自分の言葉で思いを語る事ができた。

また、3匹で遊んでいても楽しくない場面とりすさんのことを考えて一緒に島に行く4匹の場面对比させ、「どうしてりすさんの顔は笑顔になったのか。」と切り返しの補助発問をすることで、道徳的価値を高めるよう工夫した。

(3) 終末

教師：これからどのように友達と生活していきたいですか。ワークシートに書きましょう。

全員：（ワークシートに記入する。ワークシート記入後、できた児童は互いの席で意見交換をする。）

教師：発表してください。

W児：自分のできないことをみんなで助け合ってがんばる。
 X児：一人で悲しんでいたら、一緒に遊ぼうと言ってあげる。
 Y児：できない人を助けて、生活していきたい。

教師：これからも学級目標のように「力を合わせてファイト」でいきましょう。

教師：外国のある先生が「友情は喜びを二倍にし悲しみを半分にする。」と言っています。みんなが「もみじフェスタ」でうまくいかなかったとき助け合って大成功したようにね。「私たちの道徳」の75ページです。みんなで言いましょ。

全員：「友情は喜びを二倍にし悲しみを半分にする。」(二倍、半分の動作をしながら)「力を合わせてファイト1の1。」(右手を上げて)



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

意見交換をするかかわり合いの場を設定することで、友達の多様な考えにふれることができた。

終末には、P. 75のフリードリヒ・フォン・シラーの名言を活用し、2学期に友達と協力して得られた成功体験の感動をより確かなものにしていくことができた。ワークシートには、「一緒に助け合って、困難を乗り越えるよ。」「失敗してもみんなで考えを合わせて、話し合って成功に変えていきたいです。」「縄跳びができない人には、縄は速くまわるから前に縄が見えたら跳ぶんだよと教えてあげたいです。」など、友達のことを思う表現が見られた。

3 実践を振り返って



P. 76「友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったこと」に記述した内容を教師が称賛した後、「私たちの道徳」を家庭に持ち帰らせ、自分の楽しかった内容を保護者に伝えさせた。2学期は、「もみじフェスタ」「音づくり」「音読発表会」「グループ学習」「みんなのあそび(昼休み)」など、一人ひとりのよさを出し合う機会を多く作ってきたので、トラブルや難しいことに会うたびに友達と力を出し合いながら成長する姿が見られた。家庭に「私たちの道徳」を持ち帰り、保護者から「友達と一緒に作って成功してよかったね。」「もみじフェスタではお友達のいいところをいっぱい見付けられたんだね。」「きらきら星をみんなで歌っているところがとても楽しそうね。」「お友達の意見や思いをしっかりと聞いているんなことに挑戦できるといいね。」などのコメントをもらい、家庭でも学校でも成長を共に喜ぶことができた。事前に、「私たちの道徳」を活用することが、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深めることにつながったと考える。